奈弓連だより

通巻 177 号

平成 28 年 11 月号
発行　奈良県弓道連盟
会長　西中　正
編集担当　　土谷尚敬　野尻賢司

近畿地域弓道大会
地元奈良県勢がんばりの中　男女とも団体優勝

10 月 16 日秋晴れの下、橿原公苑弓道場を会場に近畿地域弓道大会を奈良県が主幹となり開催しました。前日の会員による準備のおかげで AM8：00 には近畿各地からの弓人を迎え、最終の順位決定戦は日が暮れた中での一日となりました。

結果は次のとおりです。

男子団体

優勝　奈良Ｊ　佐藤、前川、奥田
２位　京都Ｋ　　３位　兵庫Ｚ

女子団体

優勝　奈良Ｋ　片山、栄島、西田
２位　奈良Ｑ　東中、原田、長濱
３位　奈良Ｆ　衞藤、逸崎、林

男子個人戦

優勝　奈良　　今西達也
（予選皆中者による八寸星的での決勝射詰め）

近畿大会での進行を終えて

今回は、６００人を超える参加者と聞き、時間内に大会を終えることができるのかとの不安もありましたが、円滑に進行でき予定時間で終えることができました。これも、進行からの指示に対する各担当箇所の皆さまが円滑にご対応いただいた結果であります。色々、無理を言ったこともあったかもしれませんが、ご容赦ください。本当にありがとうございました。

（競技部長　長濱）

奈良県弓道近的選手権大会
男子　長濱正伸選手、女子　林秀子選手が優勝

第 19 回奈良県弓道近的選手権大会が 11 月 3 日に橿原公苑弓道場にて開催されました。日差しはあるものの肌寒く感じる一日でした。100 名を超える参加者で、20 射の競技予定を 16 射に変更しての実施となりました。また、今回は 12 月の中央審査のための的張りもあり、参加者の皆様に協力して頂きました。結果は次の通りです。

男子　優勝　長濱　正伸（橿原）
　　２位　山口　亮二（生駒）
　　３位　辻本　元威（香芝）

女子　優勝　林　　秀子(橿原)
　　２位　衞藤　明美（橿原）
　　３位　松澤　和実（奈良）

（競技部　西田ゆり）

奈良県弓道連盟 名誉会長

吉本清信先生

おめでとうございます

平成 28 年度秋の叙勲で、栄えある旭日双光章を受章されましたことを心からお祝い申し上げます。これからも先生がご健康で、ますますご活躍されることをお祈りします。

奈良県弓道連盟会員一同

2016希望郷いわて国体
健闘するも決勝トーナメントへの進出ならず

10 月 7 日～10 月 10 日　第 71 回国民体育大会弓道競技が岩手県奥州市で開催されました。奈良県の選手は健闘するも、残念ながら決勝トーナメントへ進むことはできませんでした。

男子選手（佐藤聖太・今西達也・新子修平）予選結果：
　近的合計 19 中　11 位、遠的合計　17 中　22 位
女子選手（林秀子・吉岡瑞紀・揚田よう子）予選結果：
　近的合計 16 中　13 位、遠的合計　16 中　13 位

西中会長を囲んで奈良県の選手、監督のみなさん

国体に参加して

会場のある岩手県奥州市は、気温はかなり低く、指先が悴むこともありました。普段汗をかきながら練習していた奈良とは全く違う状況の中、期待や不安を抱きながら、遠的と近的、それぞれの予選に挑みました。

今まで練習でやってきたことをしっかりとやり通すことに集中して挑みましたが、そう簡単にいつも通

（3 頁に続く）

私の高校生活と弓との出会い

奈良県弓道連盟会長　教士七段　西中　正

中学時代に水泳自由形100mで、県大会で優勝

中学時代は体格が優れており、いろいろなスポーツが得意で、また夢中でした。身長は現在とほぼ同じ175ｃｍもありました。五條市は伝統的に水泳が盛んなところで、私も水泳に夢中で自由形１００ｍで、県大会で優勝できました。当時、東京オリンピック選手が和歌山白浜のロート製薬のプールで強化合宿をしていた中、次期候補者として参加するほどでした。そこには東京オリンピックで活躍した故木原光知子さんも参加していました

弓道はやりたくて始めたのではなかった

私は短気で、負けん気、小学生の時には中学生相手に喧嘩することもありました。そのような私を見かねてか、父が「いい弓道場がある。一度見に行かないか」と、中学３年生の夏休みに五條にある大畑三千夫先生の道場に連れて行ったのが、弓道を始めたきっかけです。弓道をやりたくて始めたのではなかったのです。

道場では五條弓友会に属し、社会人の人たちと一緒に弓を引いていました。学校が終わってから、また週末の練習です。大畑先生の方針で体配も重視した練習でした。そのような私ですが高校入学後すぐに、クラブ活動では弓道部には入らずバスケット部、陸上部に入りました。その理由は王寺工業高校の弓道部の練習が大畑道場とはあまりにもギャップがありすぎたからです。高校では射場も整備されておらず、体操着のままで、ただ的に当てるだけの練習だったのです。

したがって高校１年生の時はバスケット部､陸上部、そして五條弓友会での弓道と、3 つのスポーツの掛け持ちでした。しかし、バスケット部は練習時間がハードすぎてしばらくして断念しました。陸上部ではハイジャンプをしていましたので、自分で時間のコントロールができたので、弓道は継続できました。

高校2年生の夏休みに弐段合格し、陸上部は退部

高校１年生の３学期には大畑先生から初段受審の許しが出て、橿原弓道場で行われた審査に合格。当時の審査員には伊藤登先生、増田美和栄先生、岡田弘先生などがおられました。このころ、弓道への興味が大きくなり王寺工業高校の弓道部員との出会もあって、いよいよ弓道部に入部しました。と言っても、王寺工業高校弓道部に属しながら半分は五條弓友会で練習していました。王寺工業高校弓道部には指導者がいなくて先輩が後輩を指導している状態でしたが大会等では、高田商業、郡山、畝傍などをライバルに、いつも

大畑道場で稽古をしていた高校生時代の射影

上位の成績を残していました。また私は個人戦でも上位入賞を果たしていました。２年生の夏休みの終わりには弐段に合格し、ますます弓道にはまり込み、ついに陸上部の退部を決意しました。

大畑先生･五條弓友会の思い出

大畑先生は常に穏やかな話っぷりで、指導をされていました。体配の指導では腰で歩け。腰で回れ。腰を安定させろ。射技では、丹田で引け。呼吸を意識しろ。とよく言われました。ある時は先生の友人で太極拳をされる方を招き、呼吸法を学びました。「寝ている時でも鼻から吸って、息を吐きながら、背中、脊髄を通してお尻まで、持っていく」と言っておられたのを覚えています。

五條弓友会では中学生から大人までみんな同じ練習をしていました。高校生ではありましたが体配についても厳しい指導を受け、おかげで高校２年生の３月には参段に合格できました。道場では先生方、学生、一般の人達を交えて弓談議を、時間を忘れてやっていました。丹田はどうする。肛門は締めているか。など自分はできていないのに話題に参加しているのが楽しかったです。その頃、須田三郎先生が大畑道場に下宿されていて指導していただきました。先生は高校の国語の先生で、弓道のみならず、色々なことを勉強されていました。とても物静かで、字が上手な先生という印象を持っていました。

今振り返りますと、私の高校時代は、大畑道場の五條弓友会での練習を中心に弓道の修練が大半を占めていました。父親のねらいどおり、穏やかな先生の態度に触れるうちに私の中で何かが変わり、人の話が聴けるようになりました。多忙な時代の流れの中で、かってのように、指導者に技術と精神論を要求するのは無理なことだろうかと思います。

りに弓を引かせてくれないということが、国体に対して自分が受けた大きな印象でした。「普段通り、一本ずつしっかり」と言い聞かせていても、「２本詰めたら３本目も詰めなければ…」と気が付けば考えてしまっていました。結果的に自分を追いつめてしまい、すっかり遠的でも近的でも３本目を外していました。

しかし、何か経験を持って帰らないと意味がないと思い、近的予選最終立では、無駄なことを考えずに一本ずつに集中しました。なんとか最終立で３本目を詰めた時、最後に３本目の執着に捕らわれなかったことを察していただけたのか、その時の奈良県チームからの大きな矢声は今も耳に残っています。

射場に立つときに的に捕らわれないように気持ちを保つことがどれだけ難しいかを再度実感したことはもちろん、技術、身体も他府県の選手に比べればまだまだ足りないことだらけでした。今回の経験を糧に、もっと精進しなければと思います。（佐藤　聖太）

台風を引き連れて2016希望郷いわて国体に

私にとって初めての国体。今の自分の力はこの程度なのだと突き付けられました。改めて国体の舞台で感じたことを思い出そうとすると、ほぼ「無」です。決して舞い上がっていたから記憶が曖昧・・・というのではなく、少しは自分に集中できていたのではないかと思う。いかに自分の射に集中できるか・・・他県の強い選手は、射の安定もさることながら、「ひとり」で引いているなと感じました。

「呼吸を乱すな。そこから隙ができて一気に崩れるから」との先生の言葉を胸に、自分の呼吸に集中していても、メンバーの呼吸の乱れに、つい引きずられてしまう。淡々と自分の弓を引く・・・それは自分のためだけでなく、ほかのメンバーのためでもあるのだということ、そして、気合いとは込めるものではなく、あらゆる欲や雑念をそぎ落とした後に残るものではないかと感じました。そこがどこであろうと、周りに左右されず、まっすぐな気持ちで的に向かいたい、まっすぐな心で矢を届けたい。まるで初恋の人のハートを射抜くように。　（揚田よう子）

全国遠的選手権大会
白井選手　決勝進出するも、入賞ならず

10 月 21 日から 23 日東京中央道場にて第 67 回全国遠的選手権大会が開催されました。奈良県の代表として男子では藤岡、長濱選手が、女子では白井、揚田選手が出場されました。

予選は１回目一手２射、２回目二手４射、合計６射で競われ、白井選手は４中で、決勝進出しました。決勝は一手５回合計１０射で行われ、６中と健闘されましたが、残念ながら入賞には届きませんでした。選手の皆さんお疲れ様でした。

「ねんりんピック長崎 2016」に参加して

10 月 15 日～17 日に長崎県で開催された全国健康福祉祭ねんりんピックに奈良県代表（総勢 111 名）として参加しました。10 月 15 日は、さわやかな秋晴れの下、諫早市で全国から 26 種目 1 万人が参加し、常陸宮妃殿下をお招きして、総合開会式が開催されました。つづいて会場を島原市に移し、弓道交流大会の開会式が行われ、いよいよ弓道競技がスタートしました。

弓道交流大会は、10 月 16 日 17 日の二日間に亘って、島原市霊丘公園弓道場で開催され、小林、斎藤、松浦、泉原、赤松が県代表チームとして出場しました。全国からは 70 チームが参加し、予選は四つ矢二回 5 人立の 40 射の的中数で、上位 16 チームが決勝に進出するという方式で行われました。まず、参加者には 80 歳以上の方が 20 数名もおられ、最高齢 89 歳（女）ということに驚きました。

私たち奈良県チームは、初日こそ 20 射/9 中で、決勝進出に期待を抱かせましたが、二日目は意気込みが空回りして、予選通過がならず（予選通過ライン 18 中競射）、無念な結果となりました。

予選で競射中の小林、斎藤、松浦、泉原、赤松の各選手

決勝トーナメントは熱戦続きで、中には胴にコルセットを装着し、背中を丸めたまま入場しながらも、会では縦線をきかした離れで的中を重ねる 85 歳の選手に、会場全体が感動し退場されるまで惜しみない拍手が鳴り止まなかったという場面もありました。

優勝決定戦は、地元長崎県と山口県の同中競射となり、会場の白熱した雰囲気を間近で体感することが出来ました。やはり体力、精神力、集中力がなければ、様々なプレッシャーに打ち克って、このような行射は出来ないと痛感しました。今回の、この貴重な経験をこれからの弓道修練に活かしていきたいと思っています。　（郡山支部　　松浦　敏弘）

全国高等学校弓道選抜大会兼近畿高等学校弓道選抜大会県予選
団体は男子橿原高校、女子畝傍高校が優勝

平成 28 年 10 月 29 日･11 月 6 日の両日に橿原公苑弓道場にて、第 35 回全国高等学校弓道選抜大会兼第 24 回近畿高等学校弓道選抜大会県予選が開催されました。結果は次頁の通りです。個人１位２位、団体１位

は、名古屋市日本ガイシホールで行われる、第35回全国高等学校弓道選抜大会に出場します。また、個人６位まで、団体３位までは滋賀県立武道館弓道場で行われる近畿高等学校弓道選抜大会に出場します。

個人戦

各自８射の予選を行い、男子５中・女子４中以上で通過。男子は110名中22名が通過、女子は101名中37名が通過した。準決勝では、男子22名中７名が通過、女子37名中９名が通過した。

男子個人１位　松田　湧太（橿原）
２位　渡邊　大祐（高田商業）
３位　福本　恭矢（畝傍）
４位　馬場　魁斗（磯城野）
５位　日高　稜真（西の京）
６位　川村　太地（郡山）

喜びの男子個人戦入賞の選手（左より１位～6位）

女子個人１位　西　　翠（高田商業）
２位　上村　海晴（高田商業）
３位　後藤　みゆ（畝傍）
４位　山添　舞優（榛生昇陽）
５位　久保　沙織（五條）
６位　渡邉　彩美（橿原）

喜びの女子個人戦入賞の選手（左より１位～6位）

団体戦

３人で24射を行い、上位６校が予選通過。
男子は、16中 西の京、15中 畝傍、法隆寺国際、13中 橿原、12中 郡山、11中 奈良高専（４校の競射による）、女子は、13中 西の京、畝傍、平城、奈良北、五條、桜井が通過した。

男子団体

１位　橿原高校　５勝０敗４５中
西田友樹・笠井大世・松田湧太・長田勇士

喜びの男子団体戦入賞チーム（左より１位～3位）

２位　郡山高校　３勝２敗２９中
松田遼大・小柳雄瑚・川村太地・宮﨑智春
３位　西の京高校　２勝３敗３８中
芳仲貴久・日高稜真・髙間靖智・岡田大輝

女子団体

１位　畝傍高校　５勝０敗３３中
後藤みゆ・庄田陽香・鎌倉　凜・細川　萌
２位　桜井高校　３勝２敗３３中
小林のの・植本佳奈子・長尾琴美・山本仁美
３位　奈良北高校
藤野沙羅・山本姫瑠・岡本萌樺・足立優香

喜びの女子団体戦入賞チーム（左より１位～3位）

技能優秀賞

男子　西田友樹（橿原）、女子　西　翠　（高田商業）
（高体連　藤村　佳照）

奈良市遠的選手権大会
Eチーム(徳田四郎・馬場雄一・松尾謙二)が優勝

平成28年10月23日(日)薄雲が広がり、秋晴れとはいきませんでしたが屋外で行われる遠的競技には最適の日和のなかで、奈良市鴻池運動公園多目的広場において平成28年奈良市遠的選手権大会が開催されました。

競技は11チーム、31名の参加者により、3人立ち、2射場で、四ッ矢3回、的中数の上位から団体と個人の3位までを決定しました。結果は下記のとおりです。

薄雲が広がるなか開催された奈良市遠的選手権大会

団体の部

1位　Eチーム　徳田四郎、馬場雄一、松尾謙二
2位　Iチーム　岡本ハツ子、高柳詩子、河合博子
3位　Hチーム　中山誠一郎、中井達男

男子個人の部

1位　徳田四郎、2位　中山誠一郎、3位　松尾謙二

女子個人の部

1位　西田ゆり、2位　河合博子、3位　岡本ハツ子

遠的競技は日頃練習する機会があまりありませんので、競技終了後に自由練習時間を設けました。皆さんは、12射引いた後にもかかわらず、新司会長の御指導のもと何回も何回も的前に立ち、熱心に練習されていました。最後に、新司会長より「遠的は焦らずじっくり会で伸び合い、まっすぐに、のびのびと矢筋に離すことが大切だ！」とのお言葉をいただき、又来年に向かってのそれぞれの課題を胸に納会となりました。

（奈良支部　西田　ゆり）

第1回中堅層特別講習会
審固の気持ち、大らかな気持ちで大きな射を引く

平成28年10月23日（日）橿原公苑弓道場に於いて、西中会長、阪中理事長を講師に、標記の講習会が22名の参加で行われました。

この講習会は、これからの連盟を担う人材育成のため、支部から推薦された、四、五段保有者を対象に開かれ、今年で三年目となります。三回連続の講習会で、今年度は、基本体・射礼・射技を各回のテーマとし、第一回は、基本体とじっくり向き合う一日でした。

会長の挨拶では、歩き方や入退場は、参段までに身につけておいて欲しい。教本は審査の時だけでなく、普段からしっかり読み込んでおくようにとお話がありました。

矢渡（射手　西中会長、第一介添　遊田受講生、第二介添　土谷受講生）講評の後、一手行射を全員で行い、今回のテーマである基本体の研修を、午前に執弓の姿勢・跪座、午後に入退場と分けて行いました。
西中会長の講話では、錬士受審の際、弓を二つ後ろの立まで投げてしまった失敗談や、増田美和栄先生とのエピソード、などたくさん語ってくださいました。その中でも、ある審査会場での話。落前の弦音で弓を立てない大前に、二番の先生は弓で大前を突き、気づかせて、皆中で退場した。退場した後、大前の人が来られ、「弓が体に当たりましたね。申し訳ありませんでした。」と言われた。その人の耳には補聴器。「しまった！」先生の心の叫び。彼は弓を立てなかった事を詫びたのでなく、先生の弓を自分の体に当てさせてしまったことを詫びたのだった。先生は耳の不自由な彼に対して、自分の思いだけで行動し、本来審査員が促すべき場面で、弓で突くと言う失態をおかした上、逆に謝りに来られた。この時点で負けである。勿論、皆中したが不合格。暴れ弓を引きこなし、当たり重視だった自分の考え方を反省し、思いやりや心配りがいかに大事なことかを思い知らされた。このような経験を沢山されて、人間性を高めて行かれた会長に感銘を受けました。

また、県連会員の射について、綺麗に引くが、個性や爆発力がないと指摘されました。支部の練習だけでは小さくまとまるので色々な所で経験を重ね、審固の気持ち、大らかな気持ちで大きな射を引くように。人のお世話をすると、人の心が見えてくる。優しさを持って育って欲しいとお言葉をいただきました。

講話の後、代表五名の持的射礼、仕上げの一手で終了しました。次回は11月20日に続きます。

（指導部　松村由喜子）

第2回中央審査講習会報告

平成28年10月30日橿原公苑弓道場にて中央審査講習会が行われました。主任講師は西中正教士七段、講師は新司正人教士七段　竹村邦夫教士七段でした。

初めに、教士、七段受審者による一つ的射礼、錬士受審者による持的射礼、六段受審者と一般参加者による一手行射。当初の予定では午前中に一手行射まで終わらせる予定でしたが人数の都合により持的２立と一手行射を午後へ回し、午後からの射技研修、仕上げの一手行射のうち、仕上げの一手行射を割愛しました。限られた時間の中で受講生も１つでも何かをつかむべく熱心に受講されていました。

竹村講師から指導を受ける受講生たち

最後に西中主任講師の講評にて、あれもこれも直したいと手を出すのではなく一つ二つと課題を絞り、合格に向け頑張ってくださいと激励をいただきました。

今回の受講者数は錬士受審者１９名、六段受審者１２名、七段受審者３名、教士受審者４名、一般参加者６名　計４４名でした。講師の先生方ありがとうございました。１人でも多く合格者が出ることで先生方へのお礼となるよう頑張ります　（指導部　　乾 光孝）

編｜集｜後｜記

吉本清信先生のご受勲をお祝い申し上げます。次号で詳細にお伝えする予定です。

西中正会長の随想では先生がスポーツ万能だった少年時代の一面を知ることができました。弓道誌2014年10月号にも「初心回顧」と題する随想を執筆されています。まだの方は是非一読を。

国体、全日本選手権など秋の大きな大会が終了しました。県代表の選手の皆様 お疲れさまでした。

編集担当　野尻賢司